

■「都民の福祉の増進と生活文化の向上」の展開 —(株)自然教育研究センターが位置づける5つの機能—

(株)自然教育研究センターが東京都内の自然公園で運営管理を担う4つの施設による密接な連携を活かし、「都民の福祉の増進と生活文化の向上」という施設管理の基本方針の実現の展開に向けた仕組みづくりを図ります。

(株)自然教育研究センターでは、御岳ビジターセンターに5つの機能を位置づけて、指定管理業務の展開を図ります。

- ①環境保全・生物多様性保全機能
- ②安全安心登山普及啓発機能
- ③包括的環境教育推進機能
- ④情報収集・発信機能
- ⑤地域防災・減災推進機能



■業務効率化への取組 —御岳山地域在住者雇用による有効性—

(株)自然教育研究センターでは、御岳ビジターセンター指定管理業務において、御岳山地域在住者を雇用することにより、業務効率化を含めた5つの有効性を実現します。

- ① 緊急時の対応(夜間・休館日等の緊急時の迅速かつスムーズな対応、非常時の代替要員など)
- ② 地域性の精通(地域特性(歳時記・伝統行事・食文化)、ニーズの把握、地域住民への情報提供など)
- ③ 地域雇用の創出(地域への貢献、地域との連携、ワークシェアリング、高齢者雇用、障がい者雇用など)
- ④ 利用の促進(公園利用者・プログラム参加者・ボランティア参加者のネットワーク、口コミ効果など)
- ⑤ 運営管理の効率化(交通費等の経費削減、通勤時間の短縮、夜間・早朝など特殊勤務の利便性など)

■質の高いサービス提供への取組 —日々変化する御岳山の自然を満喫するプログラムの展開—

(株)自然教育研究センターでは、「都民の福祉の増進と生活文化の向上」に向けて、日々変化する御岳山の自然について、利用者への気づきを促すために、次のような様々な体験型プログラムを実施します。

■野外プログラム

- ① 野外解説(所要時間 10分~20分程度)
季節に合わせたテーマによる現地ガイドを実施。
テーマ:春のカタクリ、夏のレンゲショウマ等

■館内プログラム

- ② スライドショー(所要時間 15分程度)
自然、文化、歴史など、御岳山の見所をスライドショーで紹介するプログラムを実施。
- ③ クラフト(所要時間 20分~60分程度)
自然素材等を使ったクラフト体験を実施。
- ④ レクチャー(所要時間 10分程度)
四季の自然の見所等を紹介するプログラムを実施。



■新たな利用者サービス提供への取組 —公募型プログラムの展開—

(株)自然教育研究センターでは、「新たな利用者サービス提供」に向けて、滞在型の利用促進を通じて地域観光に寄与する事を目的に、御岳山内の各宿坊や御岳山観光協会等と連携したプログラム(夜間・早朝を含む)等を実施します。平成30年度に御岳ビジターセンターにおいて、次のような公募型プログラムの実施を予定しています。



「新たな利用者サービス提供」に向けて、平成30年度実施予定の公募型プログラム

	㈱自然教育研究センターが位置づけた5つの機能	実施月日	タイトル	概要	対象	定員
1	②安全安心登山普及啓発機能	4月21日(土)	(仮称)あつまれ山好き女子～山の楽しみ方～	自然観察を通じた山の楽しみ方と地図読み等を通じた安全登山の重要性を実感する。	18歳以上の女性	15
2	①環境保全・生物多様性保全機能	6月2日(土)～3(日)	(仮称)御岳山でムササビ観察	ムササビ観察を通じて、人と自然との関わりについて実感すると共に野生動物観察マナーについて学ぶ。	どなたでも (小学生以下は保護者同伴)	50
3	③包括的環境教育推進機能	8月1日(水)～3日(金)	(仮称)御岳山子ども自然教室	自然体験を通じて、御岳山の自然環境の豊かさを実感する。	小学4年生～6年生	20
4	①環境保全・生物多様性保全機能	10月27日(土)～28日(日)	(仮称)御岳山でムササビ観察	ムササビ観察を通じて、人と自然との関わりについて実感すると共に野生動物観察マナーについて学ぶ。	どなたでも (小学生以下は保護者同伴)	50
5	①環境保全・生物多様性保全機能	12月1日(土)～2日(日)	(仮称)みんなで探そう！御岳山でムササビ観察	ムササビ観察を通じて、人と自然との関わりについて実感すると共に野生動物観察マナーについて学ぶ。	どなたでも (小学生以下は保護者同伴)	50

■ネットワークを活かした地域連携 —「自然公園として大事にすべき価値・特徴」重視の人材育成の取組—

(株)自然教育研究センターは、御岳ビジターセンター、山のふるさと村ビジターセンター、高尾ビジターセンター、TAKAO 599 MUSEUMにおける様々な業務を通して、関係機関との連携実績を保有します。また、御岳山においても青梅市、(一社)青梅市観光協会、御岳観光協会をはじめ、地域との連携・協力関係も構築済みです。

(株)自然教育研究センターは、保有するネットワークを活用した人材育成を展開します。



■希少動植物保全への取組 —レンゲショウマ(東京都絶滅危惧Ⅱ類)群落の保全に向けた取組—

御岳山内に生息する希少種について、諸状況を考慮して、積極的に保全すべき対象を選定し、地域と連携した保全活動を積極的に行います。これまで、(株)自然教育研究センターは、富士峰園地におけるレンゲショウマ保全の取組の実績を有します。レンゲショウマは、自然度の高い森林において、低木層が薄く灌木等で覆われていない林床で、半日陰という条件を生育環境としています。生育に適している環境が御岳山内に点在し、過去より多数の生育が確認され、近年適正な保全活動によりその生育環境を安定させてきました。また、その美しい姿と希少さから、人々の関心を集め、毎年、開花期には多くの人々が訪れ、今では重要な観光資源の一つとなっています。



- ① 生育環境の保全活動
- ② 山内の生育箇所の調査及び、個体数変化の把握
- ③ レンゲショウマへの理解を深めるための教育普及活動

■林床植生保全への取組 —ニホンジカ摂食からの林床植生保全に向けた取組—

全国的に社会問題化しているニホンジカによる被害は、御岳山地域でも例外でなく、深刻な状況になってきています。ビジターセンターは、問題の状況把握及び、レンゲショウマを中心とした植物相への影響を可能な限り抑えるべく地域関係機関と連携し、積極的に関わっていきます。平成27年、28年度に行った「御岳山地域 ニホンジカ生息調査～絶滅危惧種レンゲショウマの群生地を守るために～」(とうきゅう環境財団助成金事業)では、植生保全に対する地域の意識の高まりに寄与してきました。今後とも、地域関係機関、専門研究者とも連携し、教育普及活動にも取り組みます。



- ① レンゲショウマを中心とした富士峰園地の希少種植生保全活動
- ② ニホンジカの生息状況調査